

# 野菜畑作生産情報 第1号（要約版）

平成31年4月18日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 小麦の幼穂形成期は平年より2～5日遅れているので、適切な追肥で生育量と品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、地域によってバラツキがあるもののおおむね平年並である。適期追肥と春腐病等の防除を徹底しよう！

## ○小麦

- 1 生育は地域や品種によりバラツキが見られるものの、おおむね平年並である。幼穂形成期は平年より2～5日遅れている。
- 2 2回目の追肥は止葉抽出期から出穂期に生育量をみて適切に行う。
- 3 うどんこ病と赤かび病の適期防除に努める。

## ○にんにく

- 1 生育は、地域によってバラツキがあるもののおおむね平年並である。
- 2 追肥は、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。
- 3 さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

## ○ながいも

- 1 春掘作業は、3月中旬から4月上旬の降雪や降雨により、例年より5日程度遅れている。芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- 2 トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- 3 栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

## ○トンネルにんじん、だいこん

- 1 生育はおおむね順調である。
- 2 好天時は換気し、適正な温度管理に努める。

## ○トマト、メロン

- 1 苗の生育は、平年並で順調である。
- 2 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化する。ただし、降霜が予想される時や低温時には、二重被覆等で保温に努める。
- 3 地温の確保のため、早めにマルチングを行うなど、ほ場準備を計画的に進める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！  
ほ場の準備に当たっては、土壤診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。  
農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壤くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。

市販されている除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので御注意ください。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p101.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。

2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。

3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。

4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。

5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	大和山総括主幹
電話番号	直通 017-734-9485 内線 5076
報道監	農林水産部 船水次長（農商工連携推進監） 内線 4966